

20年前

福井豪雨 当時の様子

取材協力:山内久子さん、北村はるみさん

豊地区

復興における



被災から数日後、市社協担当職員と自治会型「デイホーム」専任職員で「デイホーム」の再開の時期を協議しました。その際、「早くデイホームの仲間会いたい」「こんな時だからこそ、みんなの顔を見て安心したい」「8月のデイホームは開催されるの？」など、地域の高齢者の声が専任職員のもとにたくさん集まってきました。参加者の声が「デイホーム」再開の後押しとなり、被災して2週間後には再開し、地域の復興を後押ししました。

被災後



仲間同士のネットワークで安否を確認！

被災後、夜になっても家の電気がつかないひとり暮らし高齢者宅があり、民生委員として心配していました。別の高齢者と会話の中で、気がかりだった方は県外の息子さんのところに避難していることが判明。日頃から「デイホーム」に集まる高齢者同士、連絡を取り合う関係を築けていたようです。

デイホームで早くみんなに会いたい！



発災直後

住民同士のネットワークで避難を呼びかけ！

民生委員として自治会長や近所の方々と一緒に、ひとり暮らし高齢者宅を訪問し、早めの避難を呼びかけました。足羽川の決壊後は、高台のおさこえ民家園に避難しましたが、日頃の訪問活動や地域の方々とのつながりができていたので、安否確認と避難者名簿の作成がとてスムーズにできました。

ふだんからの活動や横のつながりが、災害にも活かせる！

「平成16年福井豪雨」から20年

ふだんの地域福祉活動は、災害時の素早い対応につながると言われています。福井県に甚大な災害をもたらした平成16年福井豪雨から、今年で20年。今回は、被災した豊地区で対応された民生委員や自治会型「デイホーム」専任職員（現・地域支え合い推進員）に、当時を振り返ってもらいました。また、今年度、防災意識を高めた活動を行った地区の取組を紹介します。



現在

福祉と防災が連携した取組

足羽地区・明新地区

明新地区



灯明寺第8自治会担当の民生委員と福祉委員が、以前から気になる人がいたことから、総合防災訓練の前に、避難行動要支援者名簿をもとに、民生委員と福祉委員の2人で訪問しました。2〜3時間程かかりましたが、支援が必要な子どもがいる世帯の母親からは、見守りしてくれる方がいることに安心したという声が聞けたり、お互いの人柄も分かり、良好な関係を築けました。

明新地区民生委員 市橋 真紀さん

足羽地区



足羽地区社協では、災害時に向けた対応を強化するために、「災害時の避難支援体制づくり」をテーマに、専門のNPO法人の方を講師に招き、研修を行いました。

講師の話で、洪水などの水害は、災害が切迫するまでに時間的余裕があることを再認識しました。高齢者避難が発令されたら、直ちに避難行動に移るよう声をかけようと思います。

足羽地区社協会長 宮崎 孝司さん

地区社協連絡協議会と市社協では、日頃、デイホームなどの活動を通じて、顔の見える関係や居場所づくり、声かけ見守り活動が、万が一の災害にも活かせることを意識し、各地区の地域福祉活動をサポートしていきます。

